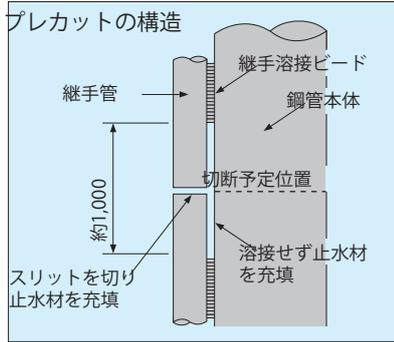


● 鋼管矢板基礎に関する周辺技術 ●

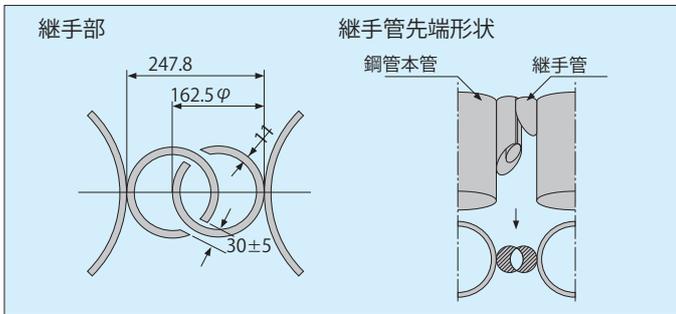
1. 継手管のプレカット

仮締切兼用方式では、締切壁として利用した鋼管矢板を切断・撤去する必要があります。切断・撤去を容易にするために、切断予定深度の継手管を予め切断（プレカット）しておきます。



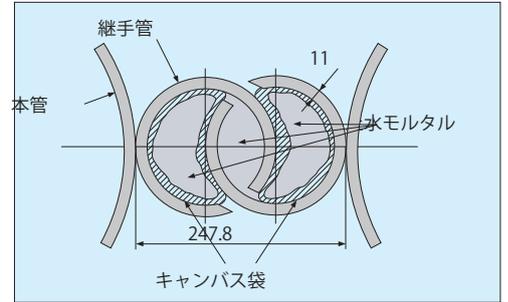
2. 継手管の先端形状

打設完了後に継手管の土砂を除去してモルタルを充填しますが、場合によっては土砂の排出が困難ことがあります。このため、継手管への土砂の侵入量を少なくするために、継手管の先端を半閉塞の構造にします。



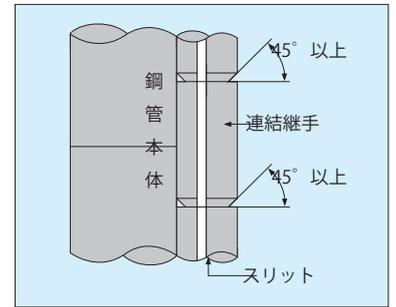
3. 仮締切部の止水処理

仮締切部の継手管内には、止水のために流動性の高い低強度モルタルを充填します。この際、モルタルが水中へ漏れ出すことを防止するために、3室のうちの両側2室に袋を挿入し、この袋内にモルタルを充填します。



4. 連結継手

鋼管矢板端部近傍には、現場溶接の作業性を考慮して、継手管が取り付けられていません。したがって、本管の溶接完了後に、連結継手 (L=600mm) を溶接で取り付けます。



プラズマカッター（ノンプレカット水中切断機）



● 特 長 ●

1. 鋼管矢板本管を切断するための高温プラズマアーク切断装置と、継手管を切断するための砥石カッターとを装備した、一体型の高性能自動水中切断機です。
2. 継手管のプレカットが不要です。
3. 集中制御方式のため、陸上（水上）からの遠隔操作による安全な作業ができます。

● 切断可能範囲 ●

鋼管外径：φ800mm～φ2,000mm
 鋼管板厚：最大 t42mm
 水深：最大 30m
 上記範囲外は別途ご相談ください。

■ 施工順序

